

# 杖突街道・秋葉街道（諏訪市高部～浜松市佐久間町舟戸）沿いに分布する石造物の岩質について

## The Lithologic Character of the Stonework Seen along the Old Highway, so Called Tsuetsuki-kaido and Akiba-kaido, to Sakuma from Suwa

中井 均 中井 睦美

NAKAI Hitoshi, NAKAI Mutsumi

### 論文抄録

中部地方の古い街道（杖突街道・秋葉街道）沿いに分布する道祖神などの石造物に関して、諏訪市高部から浜松市佐久間町舟戸の間で、その岩質を調査した。調査した石造物は85地点、総計650個ほどである。大区分（火成岩・堆積岩・変成岩に3分）では火成岩が最も多く、全体の72%あまりを占め、次いで変成岩が約12%、堆積岩約10%、不明6%であった。火成岩の中では中性から苦鉄質の深成岩が多く、次いで新第三紀の安山岩類、花こう岩類の順であるが、三者の差はそれほど大きくない。中性から苦鉄質の深成岩および花こう岩類は調査地域の西側に広く分布する領家帯のものである。安山岩類は杖突峠付近に分布する新第三紀のものと考えられる。変成岩は中央構造線に沿って見られるマイロナイトが多く利用され、次いで領家帯の変成岩と、調査地域の東側に分布する三波川帯の変成岩が使われている。

### はじめに

筆者らは学生時代から墓石やビルの外装・内装に使用されている石材の岩質に興味を持ち調査してきた（地学団体研究会東京教育大班、1975 a、1975 b など）。日本各地にはそれぞれの地域ごとにさまざまな石造物（石神や石仏、城の石垣など）が造られており、各地に石の加工を生業とする職業人の集団が形成されている。中でも、中部地方では高遠町（現在は伊那市）藤沢郷を中心とする高遠石工が有名である（大森、2004；笹本、2005 など）。

日本全国の古い街道沿いには道祖神や地藏菩薩が置かれていることが多く、それらについての研究は枚挙にいとまがない（静岡県教育委員会、1983；長野県教育委員会、1984、1995など）。しかしながら、従来の研究はほとんどすべてが民俗学・歴史学に関したものであり、それぞれの石造物がどのような岩石で造られているかに関する研究は皆無といっても過言ではない。

このたび、高遠石工発祥の地である高遠町藤沢地区を含め、高遠石工が活躍した、杖突街道～秋葉街道<長野県諏訪大社上社前宮付近(諏訪市高部)から静岡県佐久間ダム付近(浜松市天竜区佐久間町舟戸)にかけて>の、街道沿いに分布する道祖神や馬頭観音・石碑・道標などの石造物の岩質を調査する機会があったので、その結果を報告する。

## 1. 調査方法と調査地点

### 1.1 調査方法

諏訪大社上社前宮を出発地とし、杖突峠(1247m)・分杭峠(1424m)・地藏峠(1314m)・青崩峠(1082m)を通して、かつて秋葉街道が天竜川を渡る渡し場があった地点(浜松市天竜区佐久間町舟戸)まで、確認できるかぎりの旧街道を徒歩で移動し、街道沿いで発見した道祖神や馬頭観音・石碑などの石造物の岩質を肉眼で調べた。野外調査では国土地理院発行の1/25000地形図を使用し、調査結果は同じく国土地理院発行の1/50000地形図で整理した。岩質の調査は、石造物の表面のうちで苔などに覆われていない部分について、10倍のルーペでおこなった。

上記のような調査方法と調査時間の制約のため、今回の調査では以下のような問題点が残されている。

- ・旧街道が判らない一部区間については、国道を自動車移動したので、石造物を見落とした可能性がある。
- ・街道から離れた位置にあり、街道からその存在が見えない石造物については調査できていない。
- ・低倍率ルーペのみでの観察であり、岩質判定には誤差が大きいと思われる。
- ・石造物の種類(道祖神・馬頭観音など)について、判別できる物については記録したが、半数以上の石造物については判別できず、本論文では石造物として一括して議論する。

このような問題点はあるものの、上述のように、道祖神・馬頭観音などの岩質をまとめて調査した例はほとんどないと思われるので、現段階での調査結果を報告する。

### 1.2 調査地点

調査地点は杖突街道14地点(図1)、秋葉街道71地点(図2、図3、図4、図5、図6)の合わせて85地点である。以下、各地点の位置などの概要を示す。

#### 杖突街道<諏訪～高遠；図1>

- 第1地点 諏訪から杖突峠への道の中腹、標高950m付近。馬頭観音1体。<写真>
- 第2地点 諏訪から杖突峠への道の中腹、標高1000m付近。腰岩大神1体。
- 第3地点 諏訪から杖突峠への道の中腹、標高1200m付近。馬頭観音1体。
- 第4地点 杖突峠から高遠への下り道、標高1050m付近。供養塔・石仏など18体？。
- 第5地点 伊矢崎付近。庚申塚など9体。
- 第6地点 水上付近。地藏・庚申塚が各1、合計2体。
- 第7地点 荒町の北側。庚申塚など9体。<写真>

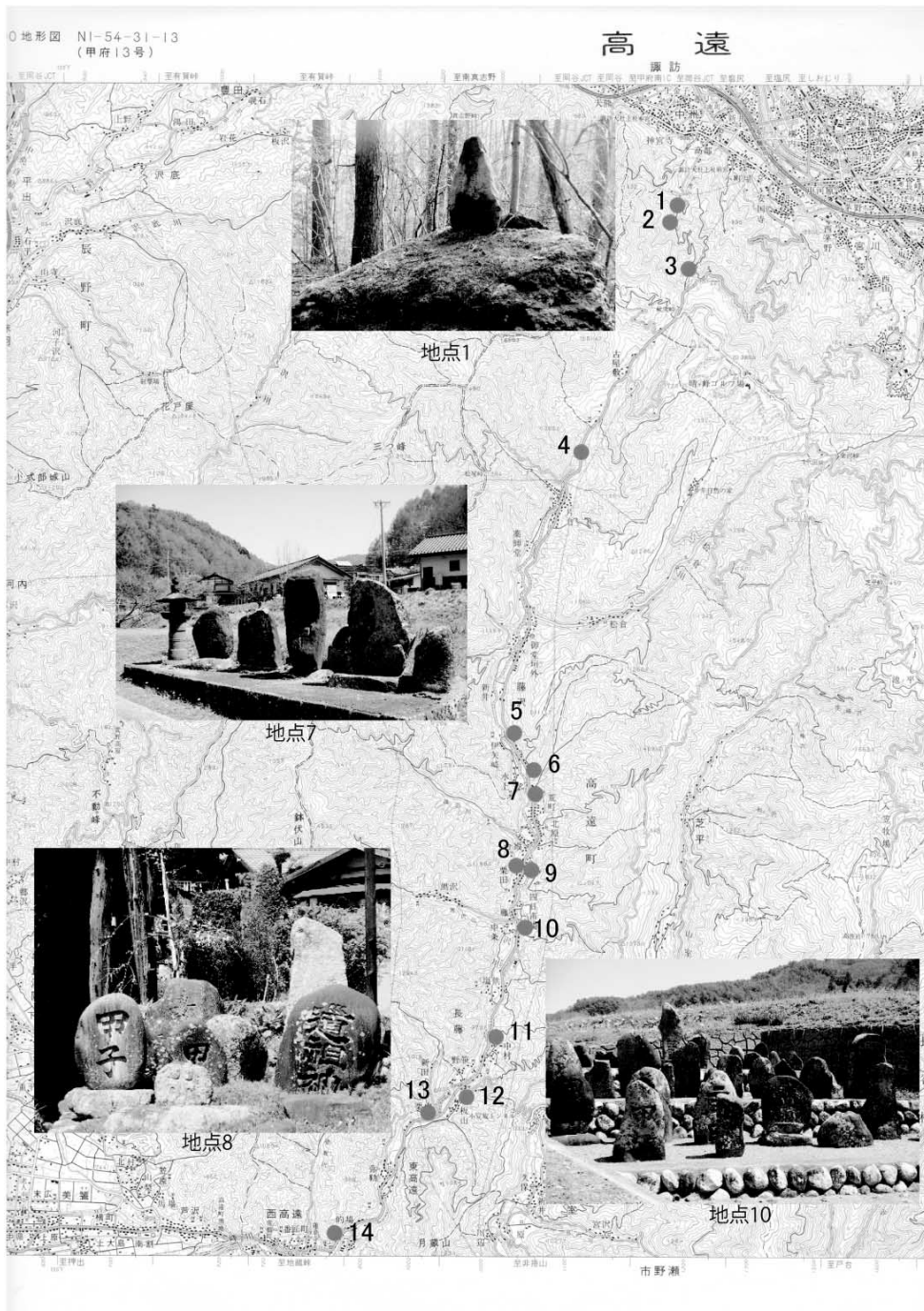


図1. 調査位置1—杖突街道（諏訪湖～高遠；調査地点1～14）  
 図中の丸印が調査地点であり、各番号は表1-1の地点番号に対応する。  
 基図は国土地理院発行の5万分の1地形図「高遠」。

- 第8地点 粟田付近の国道脇西側。庚申塚など8体。〈写真〉  
第9地点 粟田付近の国道脇東側。庚申塚など7体。  
第10地点 四日市場付近。庚申塚・道祖神・石仏など41体。〈写真〉  
第11地点 中村付近。庚申塚・道祖神・石仏など20体。  
第12地点 板山の正法寺前。庚申塚・馬頭観音など21体。  
第13地点 栗巾付近。庚申塚・道祖神など17体。  
第14地点 的場付近。庚申塚・石仏など11体。

**秋葉街道〈高遠～分杭峠；図2〉**

- 第15地点 高遠城の入口付近。庚申塚など4体。〈写真〉  
第16地点 堀付近。道祖神2体。  
第17地点 西和手付近。石碑（五郎山神社）。  
第18地点 共信付近。道祖神1体。  
第19地点 滝沢付近。庚申塚など3体。  
第20地点 原勝間の西。供養塔・庚申塚・道祖神など22体。  
第21地点 三峰川にかかる橋の袂。不動明王1体。〈写真〉  
第22地点 中非持への道の途中。道祖神など多数。詳細不明。  
第23地点 長谷中学校入り口付近。道祖神など5体。  
第24地点 熱田神社付近。道祖神など約10体。  
第25地点 秋葉神社付近。道祖神1体。  
第26地点 薬師堂付近。道祖神など17体。〈写真〉  
第27地点 津郷付近。道祖神・石仏など44体？。  
第28地点 国道から和泉原へ上がる道の途中。道祖神・石仏など21体。  
第29地点 黒河内入口。道祖神など19体。  
第30地点 和泉原付近。道祖神・石仏など17体。  
第31地点 黒川合流点の橋袂。石仏群5体。  
第32地点 中尾入口〈中尾の辻の石仏群〉。石仏など34体。  
第33地点 市野瀬の中央部。庚申塚など7体。  
第34地点 一瀬越前守墓入口。馬頭観音など47体。  
第35地点 秋葉街道から赤穂方面への別れ。道祖神1体。〈写真〉  
第36地点 北川の中央構造線露頭付近。地藏など2体。

**秋葉街道〈分杭峠～鹿塩～地藏峠；図3〉**

- 第37地点 旧北川集落。成田大明神1体。  
第38地点 旧北川集落。石碑〈災害碑〉・蚕神各1。〈写真〉  
第39地点 女高付近。三界供養塔。  
第40地点 儀内路付近。道祖神など5体。〈写真〉  
第41地点 儀内路の南。記念碑。  
第42地点 大塩付近。金比羅・馬頭観音など5体。  
第43地点 柳島付近。道祖神1体。  
第44地点 塩河付近。馬頭観音2体。  
第45地点 西付近。不動明王1体。

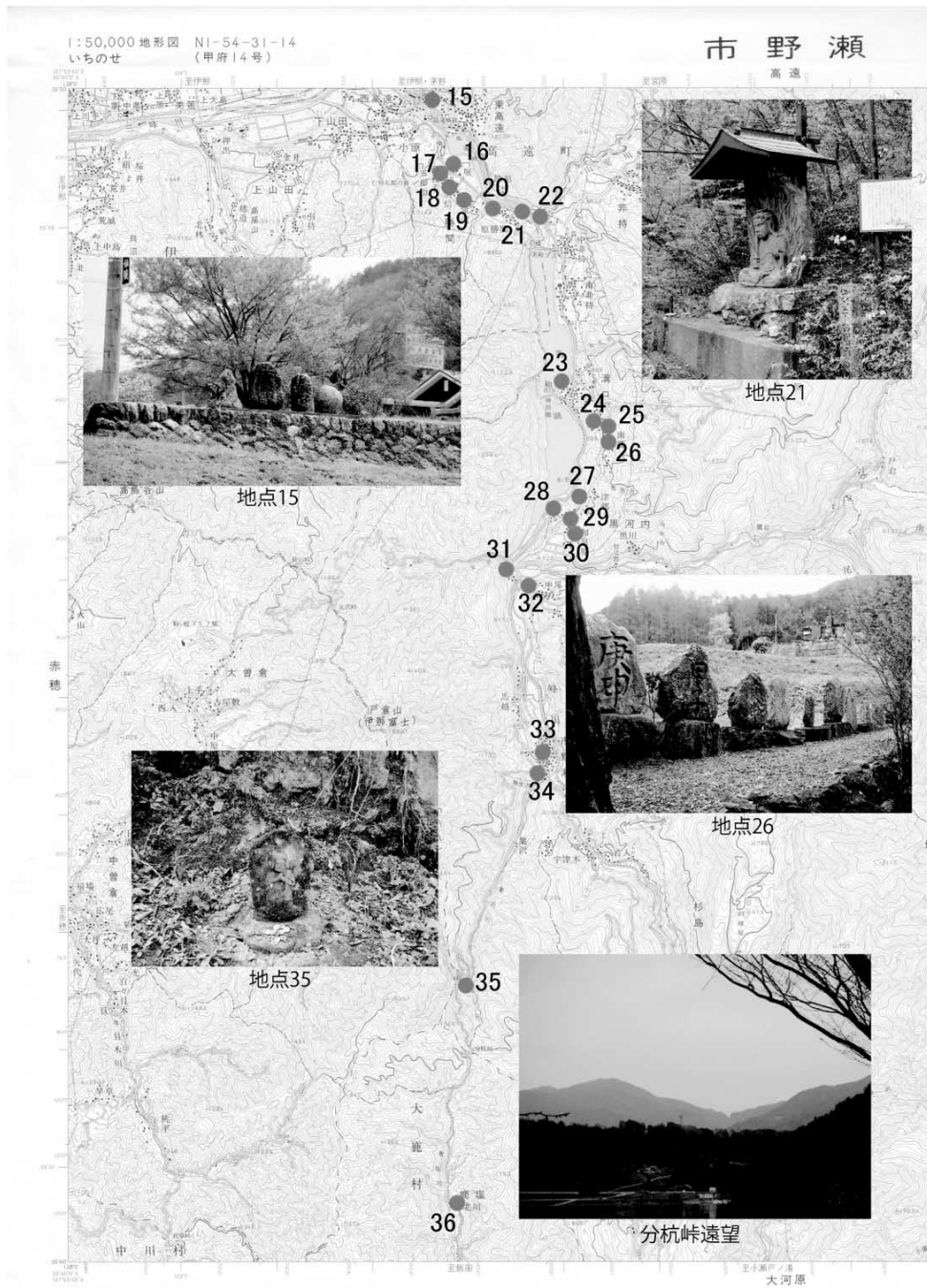


図2. 調査位置2-秋葉街道1（高遠～分杭峠；調査地点15～36）  
 図中の丸印が調査地点であり、各番号は表1-1の地点番号に対応する。  
 基図は国土地理院発行の5万分の1地形図「市野瀬」。

- 第46地点 河合の夜泣き松の近く。道祖神など3体。  
第47地点 文満の茶屋堂付近。道祖神など12体。〈写真〉  
第48地点 大河原の下市場付近。大明神など3体。  
第49地点 下青木薬師堂。石仏群18体。〈写真〉  
第50地点 引田の文化財、松下家の近く。石仏群14体。  
第51地点 上青木付近。地藏1体。

**秋葉街道〈地藏峠～遠山郷；図4〉**

- 第52地点 地藏峠の地藏3体。〈写真〉  
第53地点 大島河原の本地師の墓。古い石の墓？7基。〈写真〉  
第54地点 漆平付近。道祖神？1体。  
第55地点 上島付近。大山祇神社など。〈写真〉  
第56地点 小道木付近。道祖神など3体。〈写真〉

**秋葉街道〈遠山郷～青崩峠～水窪町；図5〉**

- 第57地点 遠山中学校の裏。片岡家供養塔・金比羅・秋葉・伏見稲荷など。  
第58地点 ヘッタレ橋袂。水神1体。  
第59地点 上新町。おいまばあさま。  
第60地点 龍淵寺表参道。石仏が27体以上。  
第61地点 下新町。水神・道祖神など3体。  
第62地点 和田本町。道標および秋葉大権現など。〈写真〉  
第63地点 下和田。道標（右三嶋 左秋葉）  
第64地点 尾之島館跡石仏群。竜神・道祖神など8体。〈写真〉  
第65地点 諏訪神社の境内。金比羅・秋葉各1体。  
第66地点 梅平の北。延命地藏2体。  
第67地点 梅平付近。延命地藏1体。  
第68地点 番所跡付近。道標  
第69地点 此田の入口付近、国道沿い。道祖神1体。  
第70地点 柿平の下、国道沿い。道標（秋葉山）および道祖神など2体。  
第71地点 青崩峠から水窪へ下る道、木地屋の墓付近。地藏1体。  
第72地点 悉平太郎の墓付近。  
第73地点 池島神社付近。馬頭観音1体。〈写真〉  
第74地点 賽の河原。石仏が多数  
第75地点 鳥居河原付近。馬頭観音1体。〈写真〉

**秋葉街道〈水窪町～佐久間町舟戸；図6〉**

- 第76地点 水窪町万歳岩跡。山住神社付近。石碑。  
第77地点 水窪町半島と芋掘の間。石仏など10体。〈写真〉  
第78地点 水窪町半島と芋掘の間。石仏など4体。  
第79地点 城西駅付近。秋葉大権現。〈写真〉  
第80地点 横吹と立原の間。石仏2体。  
第81地点 立原付近。不動明王1体。  
第82地点 間庄付近。南無阿弥陀仏1体。〈写真〉

杖突街道・秋葉街道（諏訪市高部～浜松市佐久間町舟戸）沿いに分布する石造物の岩質について

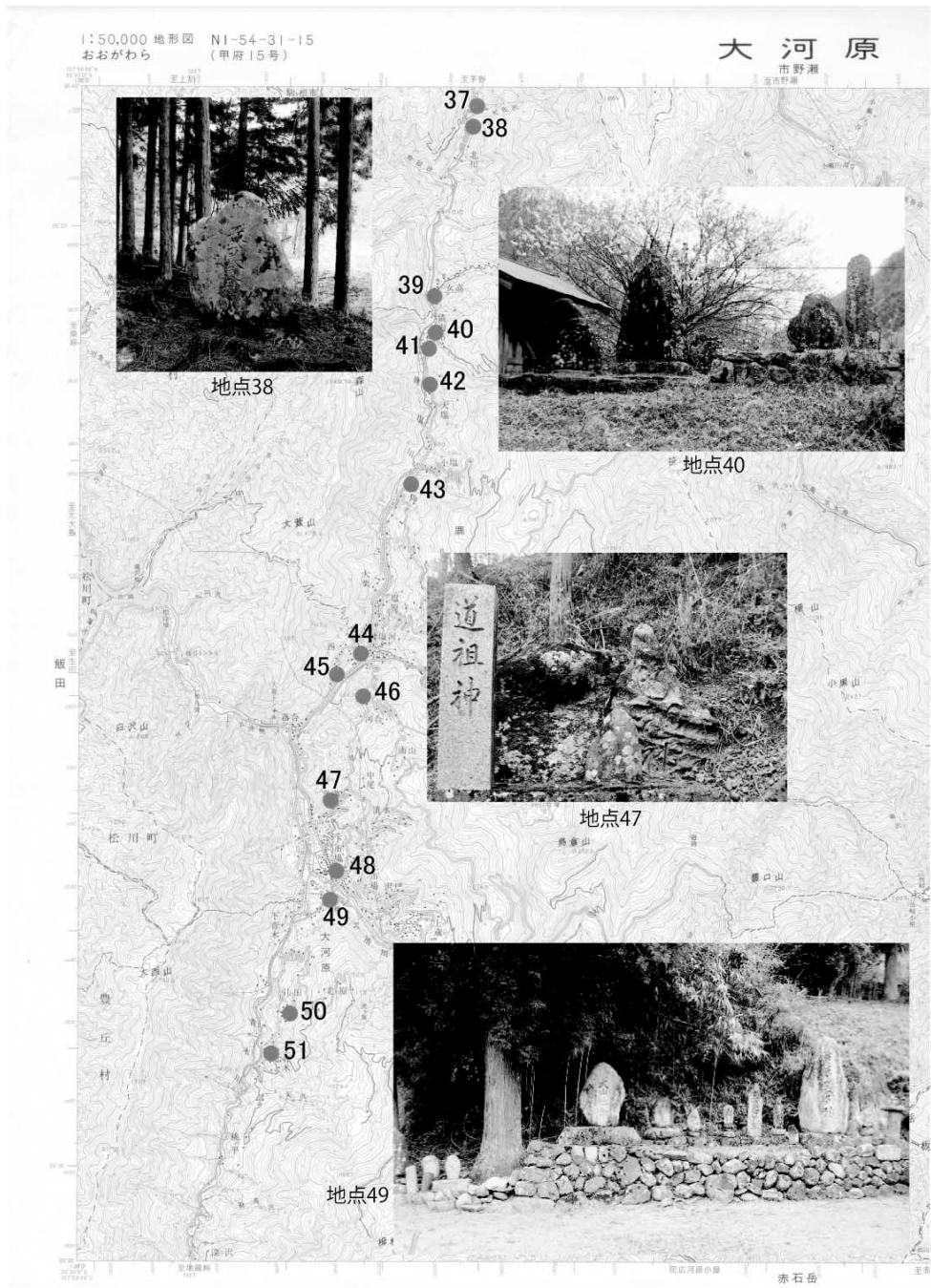


図3. 調査位置3－秋葉街道2（分杭峠～鹿塩～地蔵峠；調査地点37～51）  
 図中の丸印が調査地点であり、各番号は表1-1の地点番号に対応する。  
 基図は国土地理院発行の5万分の1地形図「大河原」。



図4. 調査位置4-秋葉街道3(地蔵峠～遠山郷; 調査地点52～56)  
図中の丸印が調査地点であり、各番号は表1-2の地点番号に対応する。  
基図は国土地理院発行の5万分の1地形図「赤石岳」と「時又」。



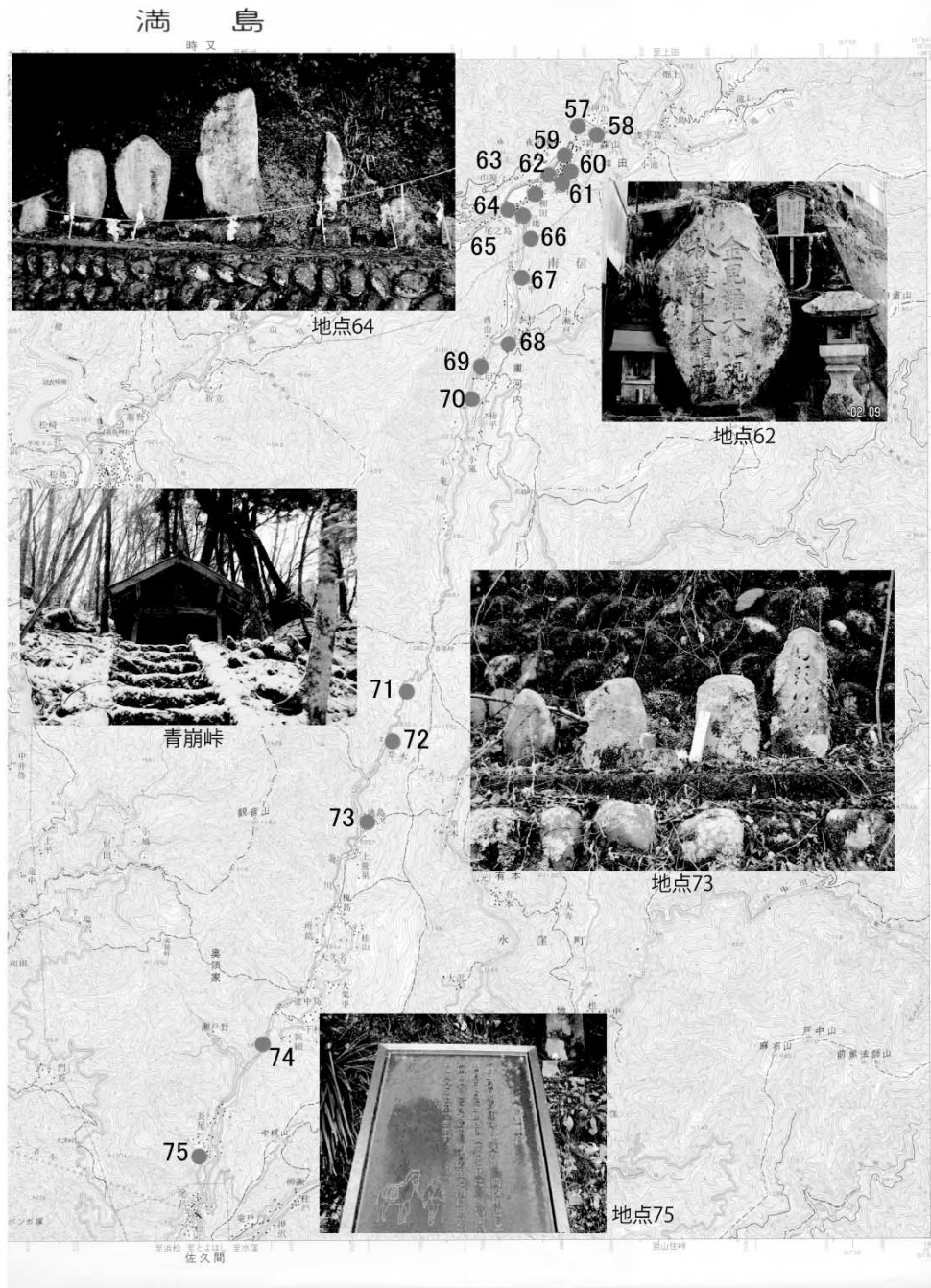


図5. 調査位置5－秋葉街道4（遠山郷～青崩峠～水窪町；調査地点57～75）  
 図中の丸印が調査地点であり、各番号は表1-2の地点番号に対応する。  
 基図は国土地理院発行の5万分の1地形図「満島」。

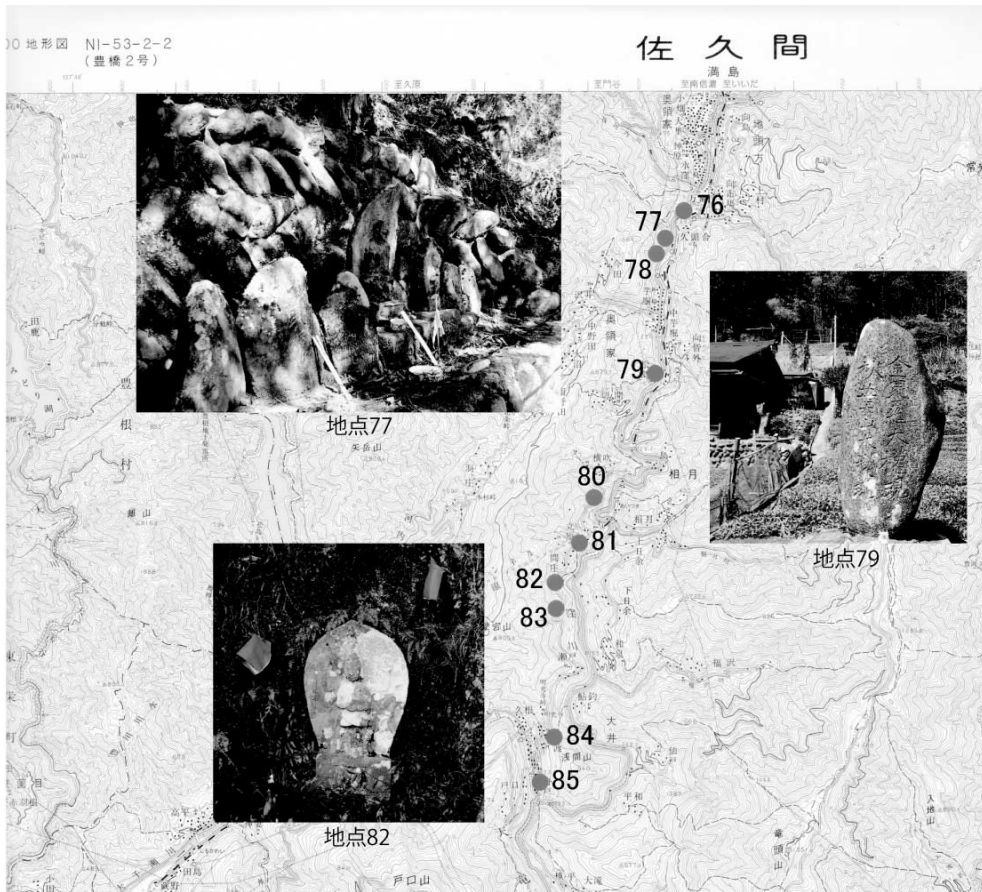


図6. 調査位置 6－秋葉街道 5（水窪町～佐久間町舟戸；調査地点76～85）  
図中の丸印が調査地点であり、各番号は表1-2の地点番号に対応する。  
基図は国土地理院発行の5万分の1地形図「佐久間」。

- 第83地点 問庄の南。石仏4体。
- 第84地点 西渡の峠。石仏3体。
- 第85地点 舟戸。道標および石仏7体。

## 2. 調査結果

判明した石造物の岩質を、北から南へ、地点番号順に表1-1と表1-2にまとめた。表中の調査地点番号は図1～図6の番号に対応している。また表をもとに、各岩質が占める割合をあらわすグラフを作成した（図7、図8）。

岩質の判定が低倍率ルーペによっていることを考慮し、岩質区分は大まかな区分にとどめている。そのため、異なる時代、異なる起源の岩石が同じ区分に分類されている。個々の岩質区分について付言すると、例えば、「砂岩」という区分には、新第三系と思われる固結度が相対的に低い礫混じり砂岩と、中生界の砂岩（「グレイワッケ」）が含まれる。

表 1-1. 杖突街道から秋葉街道（鹿塩まで）に見られる石造物の岩質

地点	堆積岩類				火成岩類			変成岩類			その他・不明	
	砂岩	粘板岩	チャート	凝灰岩	緑色岩	花崗岩	閃緑岩	安山岩	片麻岩	結晶片岩		マイロナイト
1	1											
2	1											
3								1				
4								18				
5		1						8				
6								2				
7								9				
8						1		7				
9								7				
10					1	3		37				
11						5		11			4	
12						19			2			
13					1	4		8			4	
14								9	2			
15						4						
16									2			
17								1				
18									1			
19						3						
20					1	7		8	6			
21								1				
22												多数
23							4	1				
24												10
25							1					
26			1		3			4		5	4	
27					2	4	35	3				
28	2				2	2	10	3	1		1	
29					5		14					
30					1	3	10	1			2	
31							5					
32	2			3	2	4	17	4		1	1	
33							4				3	
34					2	5	30	1	3	5	1	
35							1					
36												2
37									1			
38									2			
39							1					
40					1		2				2	
41									1			
42					1		2				1	1
43											1	
44							1		1			
45							1					
46					1						2	
47					3		6		1	2		
48						2	1					
49					1	3	7		2		5	
50	3					3	6	1		1		
51							1					

表1-2. 秋葉街道(鹿塩から佐久間町舟戸まで)に見られる石造物の岩質

地点	堆積岩類				火成岩類			変成岩類			その他・不明	
	砂岩	粘板岩	チャート	凝灰岩	緑色岩	花崗岩	閃緑岩	安山岩	片麻岩	結晶片岩		マイロナイト
52												3
53					1	4	1				1	
54						1						
55						3						
56						2						1
57	1					5						1
58						1						
59	1											
60	11					11	2				1	2
61						3						
62						3						
63						1						
64	1					7						
65						2						
66						1				1		
67						1						
68						1						
69						1						
70						1				1	1	
71						1						
72						1						
73									1			
74						多数						
75		1										
76												1
77	1					9						
78												4
79						1						
80						2						
81	1											
82	1											
83	4											
84												3
85						1						7
合計	30	2	1	3	28	135以上	162	145	21	21	34	35

「粘板岩」・「チャート」は中古生界のものであろう。「凝灰岩」としたものは新第三紀の凝灰岩～凝灰角礫岩(“グリーンタフ”)、「緑色岩」としたものは中古生界の凝灰岩また溶岩である。「花こう岩」には優白質なアプライト質のものから石英閃緑岩までのさまざまな色指数のものを含め、さらに弱い片麻状構造を持つ花こう岩類もこの区分に含めた。「閃緑岩」という区分は優黒質の深成岩類を一括したもので、細粒の閃緑岩～はんれい岩が含まれている。「安山岩」の区分には新第三紀と考えられる火山岩類(ほとんどが安山岩で、少量のデイサイトと玄武岩を含む)である。「片麻岩」という区分には、黒雲母片麻岩の他に、強い片麻状構造をもつ“花こう片麻岩”が多く含まれている。「結晶片岩」として、緑色片岩と黒色片岩が認められた。「マイロナイト」は中央構造線沿いに特徴的に分布する圧碎変成岩である。「チャート」としたものは「マイロナイト」の可能性があ

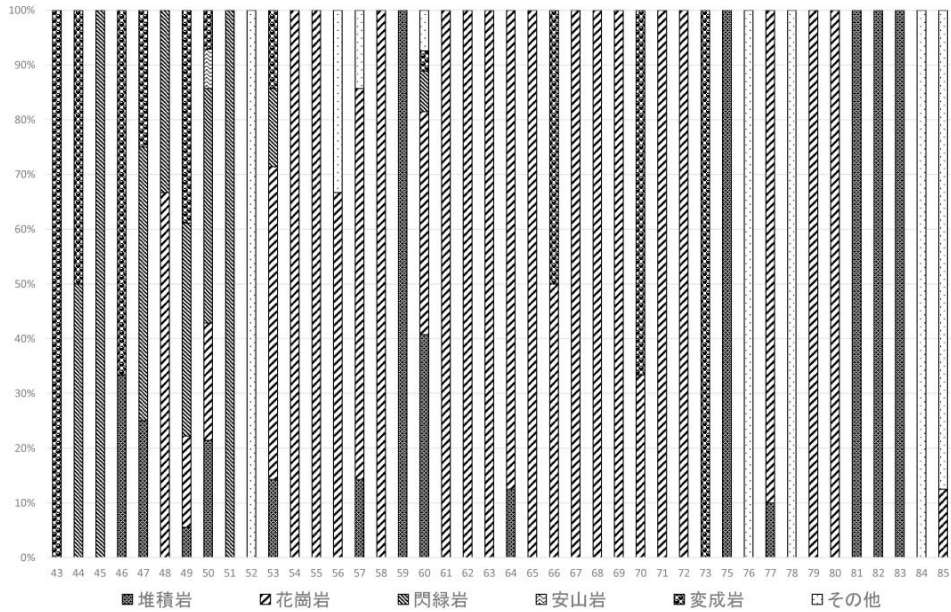


図7. 石造物に占める各岩質の割合—その1  
 諏訪（調査地点1）から鹿塩（調査地点42）まで。地点22は数が判らないので除いている。表1-1に基づいて作成。岩質は堆積岩と変成岩を一纏めになっている。

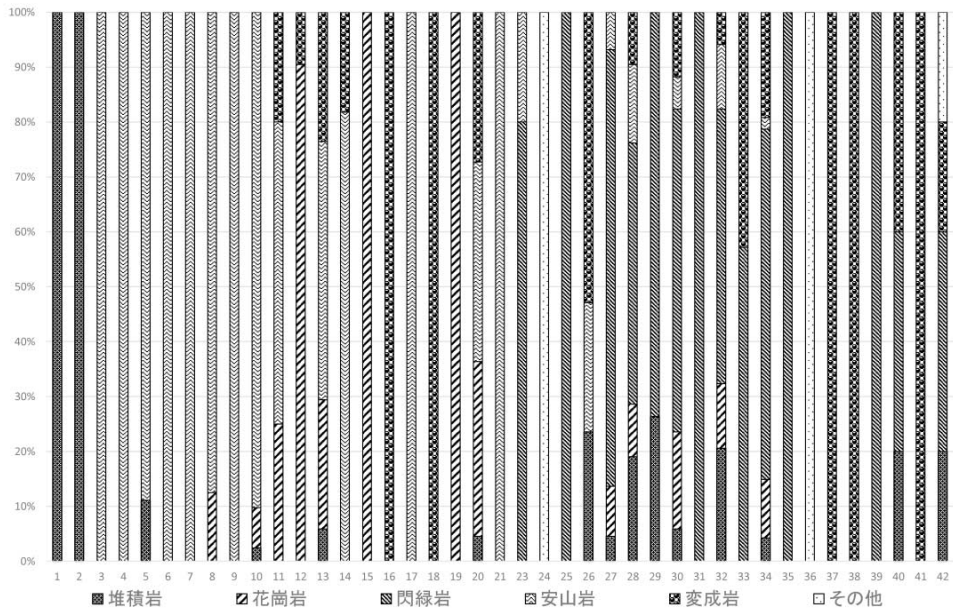


図8. 石造物に占める各岩質の割合—その2  
 鹿塩（調査地点43）から佐久間（調査地点85）まで。地点74は数が判らないので除いている。表1-1・表1-2に基づいて作成。岩質は堆積岩と変成岩を一纏めになっている。

る。「その他・不明」は上記の岩質区分に含まれないものと、調査地点の状況で石造物に近づけない、また石造物の表面の苔などのため岩質の判別ができないものを一括している。上記の岩質区分に含まれないものとしては、溶結凝灰岩?と蛇紋岩が認められた。

調査した石造物は総計650個ほどである。火成岩・堆積岩・変成岩では、火成岩が最も多く、全体の72%あまりを占め、次いで変成岩が約12%、堆積岩約10%、不明・その他が6%であった。火成岩の中では「閃緑岩」が多く、次いで「安山岩」、「花こう岩」の順であるが、三者の差はそれほど大きくない。変成岩は「マイロナイト」が多く利用され、次いで「片麻岩」と結晶片岩が同数であった。堆積岩では「砂岩」と「緑色岩」が多く見られ、「粘板岩」・「チャート」・「凝灰岩」は少数であった。

地域的な分布で見ると、「閃緑岩」は地点23から地点60の間で見られ、特に地点27から地点34までの間で多く利用されている。「安山岩」は地点3から地点50の間で見られ、それ以南では利用されていない。特に地点4から地点14までの杖突街道で多く使用されている。「花こう岩」は地点8から地点85の広い範囲で発見でき、集中して利用される傾向は見られない。「マイロナイト」は地点11から地点70の間で見られ、「花こう岩」「片麻岩」に次いで広い範囲で利用されている。「片麻岩」は地点12から地点73の間で見られ、「花こう岩」に次いで広い範囲で利用されている。「結晶片岩」は地点26から地点70の間で見られ、地点25から北では利用されていない。「砂岩」は地点1から地点83まで、最も広い範囲で見られるが、北部では新第三系と思われる固結度が相対的に低い礫混じり砂岩、中部～南部では中古生界の砂岩(“グレイワック”)が利用されている。「緑色岩」は地点10から地点53の間で見られ、地点54から南では利用されていない。

### 3. 考察と議論

地質調査所(現産業技術総合研究所地質調査総合センター)の1/20万地質図「甲府」(尾崎正紀ほか、2002)・「飯田」(山田直利ほか、1990)・「豊橋及び伊良湖岬」(牧本 博ほか、2004)にもとづいて調査地域の地質を概観すると、杖突峠の周辺は新第三紀の安山岩溶岩や堆積岩類(礫岩・砂岩・泥岩・凝灰岩)、同じく新第三紀のヒン岩・閃緑岩などの貫入岩が分布している。杖突峠の南から水窪付近までは、街道はほぼ中央構造線に沿っており、地形的にも明瞭である(図2の写真<分杭峠遠望>参照)。中央構造線に沿って、すぐ西側にマイロナイトが数100m～数kmの中で細長く分布している。さらにその西側は、領家帯の花こう岩類と片麻岩類が広く分布し、所々に変輝緑岩・はんれい岩などが存在する。中央構造線のすぐ東側は、杖突峠の南から地蔵峠付近までは三波川変成岩類、その南に位置する遠山郷付近は中古生界の岩石、更にはその南の青崩峠～水窪～佐久間町舟戸は三波川変成岩類が分布している。

このような地質分布と、石造物の岩質を比べた結果、「安山岩」・「凝灰岩」としたものは杖突峠付近に分布する新第三系、「閃緑岩」と「花こう岩」・「片麻岩」は領家帯、「結晶片岩」は三波川帯、「緑色岩」は秩父帯または三波川帯の岩石と判断される。「マイロナイト」は中央構造線沿いの岩石である。「砂岩」については、杖突街道のものは杖突峠付近に分布する新第三系、高遠から南のものは秩父帯の中古生界であろう。「チャート」とし

たものは「マイロナイト」の可能性もある。「粘板岩」の産地は、地質分布からは秩父帯の可能性が考えられるが、岩質から見て地域外から持ち込まれた可能性も考えられる。

上記の地質分布と、調査結果で述べた石造物の岩質の地域的な分布を総合的に考えると、調査範囲内の杖突街道～秋葉街道沿いに見られる石造物は、地域内に分布する、身近な岩石を利用・加工したものと考えられる。

## 引用文献

- 大森昌衛（2004）石工物語（2）日本の石工の起源と発展。地学教育と科学運動、47号、53～58頁
- 尾崎正紀・牧本 博・杉山雄一・三村弘二・酒井 彰・久保和也・加藤碩一・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久（2002）20万分の1地質図幅「甲府」。地質調査総合センター
- 笹本正治（監修）・長野県高遠町教育委員会（編集）（2005）再発見！高遠石工。ほおずき書籍株式会社、235頁
- 静岡県教育委員会（1983）静岡県歴史の道調査報告書―秋葉道―。静岡県文化財調査報告書、第25集、152頁
- 地学団体研究会東京教育大班（1975 a）ビルやデパートの石をたずねて ①東京都内新宿・澁谷の巻。国土と教育、29号、28～31頁
- 地学団体研究会東京教育大班（1975 b）ビルやデパートの石をたずねて ②東京都内銀座・上野・池袋の巻。国土と教育、33号、26～31頁
- 長野県教育委員会（1984）歴史の道調査報告書13―秋葉街道―。長野県教育委員会、103頁
- 長野県教育委員会（1995）歴史の道調査報告書44―杖突街道―。長野県教育委員会、62頁
- 牧本 博・山田直利・水野清秀・高田 亮・駒澤正夫・須藤定久（2004）20万分の1地質図幅「豊橋及び伊良湖岬」。地質調査総合センター
- 山田直利・脇田浩二・広島俊男・駒澤正夫（1990）20万分の1地質図幅「飯田」。地質調査所

Received date : Oct. 8, 2014

Accepted date : Nov. 12, 2014